

株式会社リボミック

(4591 Mothers)

発行日 2020 年 2 月 3 日

単発機から双発機へグレードアップ

RBM-007 地域限定の導出発表

2019 年 12 月 26 日、リボミックは、韓国の AJU 薬品会社との間で、加齢黄斑変性(AMD)を対象とするライセンス権許諾の契約に関する基本合意に達したと発表した。ライセンス権供与の地域は、韓国・東南アジアである。今回のライセンスが締結されることになると、リボミックは最大 600 万ドル(約 6.6 億円)の対価を受け取るということになるという。この対価をベースにすると、市場規模を日米欧に拡大した場合、400 億円台のパイプライン価値は十分あり得る数値である。次は、TOFU study の結果が判明してくる頃(2021 年頃)に、大手製薬会社と欧米を対象とした提携がまとまり、大型提携が浮上する可能性に期待したい。

第2、第3の柱も中期計画に浮上

2020 年 1 月 15 日、リボミックの中村社長は、JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンスにて、今後の事業展開に関するプレゼンテーションを行った。主力開発品である wet-AMD 対象の RBM-007 に関して、新規の内容を含む発表はなかったようだが、リボミックでは、「既存薬や競合開発品との差別化ポイント(Dual Mechanism 及び既治療患者対象の開発)が理解され、聞き手が強い興味を持って傾聴していたと感じている。」との評価である。さらに、心不全対象の RBM-003 や変形性膝関節症対象の RBM-010 が紹介され、2022 年には臨床試験入りするとの計画が公表された。

裏付けとなる資金調達計画の発表

2020 年 1 月 10 日、リボミックは、TOFU Study まで独力で遂行し、さらに、その他の有望な候補の開発を推進するため、資金調達計画(第 15 回新株予約権発行)を発表した。調達予定額は約 56 億 6 千万円であり、希薄化率は 73.32%となる。ただし、行使期間は向こう 3 年間であり、リボミックが行使をコントロールできるようファシリティ契約も結んでいる。また、調達額は、RBM-007 のパイプライン価値(日米欧対象で 425 億円)に比べれば、一桁小さい規模であることを指摘しておきたい。今回の資金調達により、RBM-007 単発機の経営から、RBM-003 という第二エンジンを備えた双発機へグレードアップされ、さらには RBM-010 という第三のエンジンも用意することで経営の安定度が向上することに着目したい。

フォローアップ・レポート

フェアリサーチ株式会社

鈴木 壯

会 社	概 要
所 在 地	東京都港区
代 表 者	中村義一
設 立 年 月	2003 年 8 月
資 本 金	3,779 百万円
上 場 日	2014 年 9 月
U R L	www.ribomic.co.jp
業 種	医薬品
従 業 員 数	22 人(単独)
主要指標 2020/1/31 現在	
株 価	432
52 週高値終値	961
52 週安値終値	287
発行済株式数	16,097 千株
売 買 単 位	100 株
時 価 総 額	6,954 百万円
会社予想配当	0 円
予想当期利益ベース EPS	-68.69 円
予 想 P E R	NA 倍
実 績 B P S	131.6 円
実 績 P B R	3.28 倍

(注)EPS、PER、BPS、PBR は
自己株式数除く発行済株式数ベース。

業績動向	事業収益 百万円	前期比 %	営業利益 百万円	前期比 %	経常利益 百万円	前期比 %	当期純利益 百万円	前期比 %	EPS 円	年度終値株価 円	
										高値	安値
2016/3 通期実績	121	-74.6	-532	NM	-322	NM	-323	NM	-24.91	1623	515
2017/3 通期実績	93	-23.1	-785	NM	-658	NM	-646	NM	-48.8	1,051	635
2018/3 通期実績	64	-31.0	-899	NM	-751	NM	-753	NM	-55.6	779	526
2019/3 通期実績	7	-87.7	-928	NM	-835	NM	-836	NM	-58.2	890	287
2019/9 2Q 実績	3	NM	-400	NM	-398	NM	-399	NM	-25.91	961	584
2020/3 会社通期予想	116	1,557.1	-1,055	NM	-987	NM	-988	NM	-68.69		

会社概要・経営理念

核酸医薬(アプタマー)の研究開発型創薬企業

<ビジネスモデル>

株式会社リボミック(以下、リボミック)は、核酸医薬の一種であるアプタマー医薬の研究開発を専門とする東京大学発のバイオベンチャーである。核酸医薬は、低分子薬や抗体医薬による創薬の種が、これまでの開発競争で枯渇化している懸念のなか、治療が難しかった疾患に対する新しい創薬モダリティ(治療手段)として注目を集めている。アプタマーは、核酸の一種であり、疾患の原因になっているタンパク質などの分子に特異的に結合し、その動きを阻害することで疾患を治療しようとする核酸である。(核酸医薬及びアプタマーについては、後述)

リボミックの技術の源泉は、社長の中村義一氏が東京大学医科学研究所で RNA を長年研究してきたことに由来する。中村社長は、研究の中で、一本鎖の RNA は、それ自体で様々な形を形成することができ、体内においてタンパク質と類似した構造や作用(分子擬態)を持つことを発見した。この RNA の性質を応用し、抗体医薬と同様に、標的タンパク質に直接作用する分子標的薬が開発できるという確信のもと、2003 年にリボミックが創立された。

独自のアプタマー創薬プラットフォームを有し、次々と創薬の種を創出

リボミックは、アプタマー創薬技術に関する独自のプラットフォームである「RiboART システム(Ribomic Aptamer Refined Therapeutics System)」をベースに創薬事業を展開している。換言すると、RiboART システムにより、様々な疾患や創薬ターゲットに対して新薬の種を次々と創出できるプラットフォーム系バイオベンチャーである。このため、下記のパイプライン図にみられるように、小規模な会社ながら開発候補品が多い。

共同研究開発から、ライセンス契約、自社開発へシフトしてきている

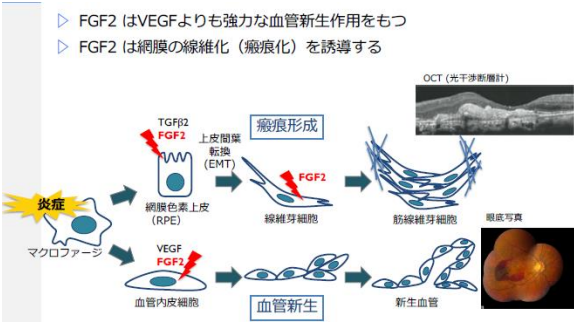
リボミックのパイプライン(医薬品)

化合物コード	ターゲット	対象疾患	前臨床	Phase 1	Phase2	Phase3	パートナー
RBM-007	FGF2	加齢黄斑変性症					
RBM-007	FGF2	軟骨無形成症					AMED(事業支援)
RBM-007	FGF2	疼痛					
RBM-004	NGF	疼痛					藤本製薬(導出)
RBM-003	Chymase	心不全					大阪医科大学 (共同研究)
RBM-010	ADAMTS5	変形性関節症					
RBM-001	Midkine	骨硬化性疾患					
RBM-006	Autotaxin	繊維症					

(出所)会社資料よりフェアリサーチ作成

この他、分離剤開発として、RBM-101 が存在する。

現在の主力パイプラインは、滲出型加齢黄斑変性症を対象とした RBM-007 で Phase2 段階にある。	リボミックでは、従来、他の製薬会社の要請に応じて新薬の種を提供する創薬探索をビジネスの柱としてきた。大塚製薬、藤本製薬、大正製薬、アステラス製薬等との共同研究開発契約が次々と結ばれ、共同研究開発から実際のライセンス契約に切り替わるものも出現した。 現在では、リボミックは、自社創薬の開発にも着手し、2018 年以降、自社でも臨床試験を開始し、一定の段階で導出を行うことで、さらに企業価値を高めようという段階にステップアップしたところである。 最も先行している開発候補品は、RBM-007 である。RBM-007 は線維芽細胞増殖因子2(FGF2)に結合し、その働きを阻害するアプタマーである。リボミックが有するパイプラインの中で、現在最も注力している薬剤であり、臨床段階に到達している唯一の開発品である。対象疾患は、滲出型加齢黄斑変性症 wet-AMD)、希少疾患である軟骨無形成症(ACH)、疼痛であるが、現時点で、臨床試験段階に達しているのは wet-AMD 対象の開発(第Ⅱ相臨床試験(Phase2;TOFU Study))である。軟骨無形成症の開発は、2020 年度前半に、日本での第Ⅰ相臨床試験(Phase1)入りを目指している。 開発候補品の全体像については、前回レポート(2019 年 11 月 26 日発行)を参照していただきたい。
RBM-007 は、TOFU Study(Phase2)が始まったばかりであるが、地域限定ではあるものの導出発表	RBM-007 :導出の基本合意発表 2019 年 12 月 26 日、リボミックは、韓国の AJU 薬品会社との間で、RBM-007 の加齢黄斑変性(AMD)を対象とするライセンス権許諾の契約に関する基本合意に達したと発表した。ライセンス権供与の地域は、韓国・東南アジアである(台湾は対象外)。リボミックでは、wet-AMD の患者数は、韓国では、およそ 10 ～14 万人程度と推測しており、東南アジアでも韓国と同程度の患者が存在するものと考えている。日本の患者数は 63 万人と推定されるため(前回レポート参照)、韓国と東南アジア合計で、日本の約 3 分の1から半分の患者数があると考えられる。 仮に、この地域の wet-AMD 患者の1割(日本並み)が抗 VEGF 薬を使用し、さらにその 3 分の1で抗 VEGF 薬が奏功せず、RBM-007 の対象患者になった場合、RBM-007 の市場規模は、約 70～80 億円と試算される。 今回のライセンスが締結されることになると、リボミックは最大 600 万ドル(約 6.6 億円)の対価を受け取ることになるという。前回レポートで、日米欧のピーク

市場規模からみて、最大で 6 百万ドルの対価は妥当な範囲 TOFU study の結果が判明してくる前後で、欧米を対象とした大型提携に期待する	時売上規模は合計 4365 億円で、成功確率 30% の場合のパイプライン価値を 425 億円と試算した。韓国・東南アジアでの 70-80 億円の市場規模に対し、600 万ドルの対価は、妥当な範囲と推察される。 なお、ライセンス契約に関する発表が、契約締結後ではなく、基本合意時点での公表になったのは、後述する資金調達との関係によるものである。契約締結は 2019 年度内が見込まれており、年度内に契約締結一時金が計上され、現在の会社による 2019 年度業績予想はクリアされるものと考えられる。 前回レポート作成時点(2019 年 11 月 26 日)では、比較的早期に、地域を限定して提携・導出される可能性も考えていたが、それが実現した。次は、TOFU study の結果が判明してくる頃(2021 年頃)に、大手製薬会社と欧米を対象とした提携がまとまり、大型提携が浮上する可能性に期待したい。
JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンスで RBM-007 等の事業計画を発表 RBM-007 の差別化ポイントが理解され、聞き手は強い興味を持って傾聴	JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンスでの発表について 2020 年 1 月 15 日、リボミックの中村社長は、JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンスにて、今後の事業展開に関するプレゼンテーションを行った。JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンスは、ライフサイエンス業界最大の年間会議の一つで、世界中の多くの投資家や経営者が集積し、最新の技術革新を発表し、投資機会やパートナーを探索する場となっている。 プレゼンテーションの内容は、主力開発品である AMD を対象とした RBM-007 の開発状況がメインであり、その他、ACH を対象とした RBM-007、心不全を対象とした RBM-003、変形性膝関節症を対象とした RBM-010 等の紹介が行われたようだ。主力開発品である wet-AMD 対象の RBM-007 に関して、新規の内容を含む発表はなかったようだが、リボミックでは、「既存薬や競合開発品との差別化ポイント(Dual Mechanism 及び既治療患者対象の開発(注参照))が理解され、聞き手が強い興味を持って傾聴していたと感じている。」との評価である。 RBM-007 の作用機序 ▶ FGF2 は VEGF よりも強力な血管新生作用をもつ ▶ FGF2 は網膜の線維化（瘢痕化）を誘導する  (出所)リボミック会社説明会資料

4 つの臨床試験計画が 5 年の経営計画として提示される

wet-AMD 対象の Phase3 が 2022 年開始、ACH 対象の Phase2a も 2022 年開始予定

RBM-007 の次の主力は心不全対象のキマーゼ阻害アプタマー

(注)現在の米国では、AMD を巡る開発競争は激しく、未治療の AMD 患者の被験者を集めるためには、米国外でも治験を遂行しなければならず、且つ、規模も大きくなるため時間もコストも拡大する。リボミックは、抗 VEGF 薬既治療患者(2nd-Line)を対象に開発中である。

また、今回、新しく 5 年間のビジネスプランとして 4 つの開発品目を臨床試験計画が掲載された。

Five-Year Business Plan : Four Clinical Stage Products

 RBM-007 Exudative Age-related Macular Degeneration (wet AMD)	2021 Complete Phase 2 2022 Initiate Phase 3
 RBM-007 Achondroplasia (ACH)	2020 Initiate Phase 1 2021 Complete Phase 1 2022 Initiate Phase 2a
 RBM-003 Acute Heart Failure	2021 Complete pre-clinical study 2022 Initiate Phase 1
 RBM-010 Osteoarthritis	2021 Complete pre-clinical study 2022 Initiate Phase 1

(出所)リボミック社資料(JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンス)

新規のポイントは、

RBM-007 wet-AMD	2022 年から Phase3 開始
RBM-007 ACH	2022 年から Phase2a 開始
RBM-003 急性心不全	2022 年から Phase1 開始
RBM-010 変形性膝関節症	2022 年から Phase1 開始

今回、wet-AMD 対象の RBM-007 について、Phase3 を 2022 年から計画していることが発表されたが、これは従来の予想通りで、Phase3 は 2022 年から 4 年程度必要とし、米国での申請は 2026 年、上市は 2027 年頃と考えられる。ACH 対象の RBM-007 も、2020 年度前半に臨床試験入りの計画が公表されていたのに加え、2022 年から Phase2a 開始の計画が発表された。この他、新規に 2 つの薬剤(RBM-003 及び RBM-010)の臨床試験入りの計画が発表された。

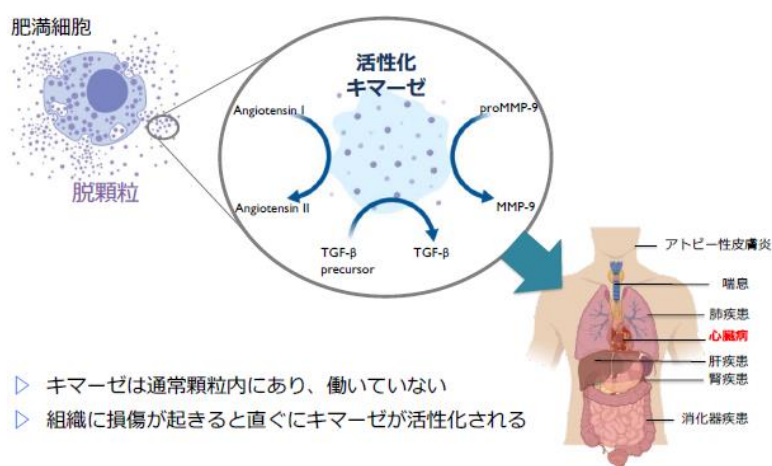
① RBM-003(心不全対象: Chymase 阻害アプタマー)

RBM-003 はキマーゼ(Chymase)に対する阻害性アプタマーで、大塚製薬との共同研究開発で開発してきたが 2015 年 12 月契約期間の満了とともに大塚製薬から譲渡された。キマーゼは、肥満細胞が産生分泌するたんぱく質分解酵素で、血圧調節を始め、多様な生理活性を有することが知られている。傷害を受けた部位では、非幹細胞からキマーゼが放出され、活性化されると、組織の線維化

や心機能の障害が始まると考えられており、RBM-003 は臓器繊維症や心不全に対する薬効が期待されている。

キマーゼは、アンジオテンシン変換酵素(ACE)と同様、アンジオテンシン I からアンジオテンシン II を産生する。アンジオテンシン II は血管を取り巻く筋肉細胞を収縮させ血圧を上昇させるほか、TGF- β や MMP-9 といった物質の発現を促進し、組織の線維化を通じて、臓器不全につながっていくと考えられている。従って、キマーゼ阻害剤は、血圧低下の他、臓器保全の効果も期待できる。

キマーゼの作用



(出所)リボミック 2019 年 5 月会社説明会資料

ACE 阻害剤のみならず
ARB の欠点を克服できる
可能性あり

では、アンジオテンシン II の活性を抑制する薬剤として、既に ACE 阻害剤や ARB(アンジオテンシン II 受容体ブロッカー)が普及しているのに、なぜキマーゼ阻害剤の開発が必要なのであろうか。まず、ACE 阻害剤では、血管損傷部分等で発生するキマーゼによって産生されるアンジオテンシン II の産生を抑制することが出来ない。バルーンカテーテルによる障害やグラフトされた血管組織では、ACE 阻害剤は無効である。これに対し、ARB は、産生されたアンジオテンシン II が受容体と結びつかない様ブロックされ、血管障害があっても有効ではあるが、全身の降圧作用を惹起する。すると、血圧を正常に保つために、心臓に負荷がかかり、心筋が肥厚する心筋リモデリングが発生する可能性がある。一方、キマーゼ阻害剤は、傷害された血管局所で活性化されたキマーゼのみを抑制するため、全身性の作用が少ない。このため、心筋リモデリングを抑制する効果も期待されている。

バイエル社は慢性心不全
対象の試験を中断

ただし、バイエル社のフルラシムスタット Fulacimstat (BAY-1142524) は、慢性心不全(心筋梗塞後の左心室機能不全)を対象に臨床試験段階(Ph II a)で開発されてきたが、プラセボとの比較で、その有効性を示すことが出来なかった(参

リボミックは急性心不全を対象とし、2022 年の臨床試験開始を目指す

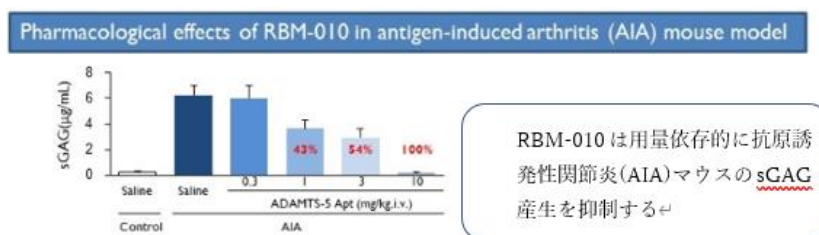
考:European Heart Journal Vol.40 Oct 2019)ため、開発中止を決定している(なお、腎不全を対象とした開発は継続中)。一方、リボミックでは、RBM-003 の酵素阻害活性は、バイエル社が報告しているフルラシムスタットのそれより強い。臓器保全機能に着目して、心筋梗塞後の早い段階での投与による予後改善を主眼にした医薬品開発を検討中で、今般 2022 年の臨床試験入りを公表した。リボミックでは、RBM-007 の次の主力候補として位置付けている。

なお、心筋梗塞(急性心不全)は、日本の入院患者数 28 万人(2019 年)、米国の入院患者数は 180 万人程度と推測され、市場規模もブロックバスター級になる可能性がある。

② RBM-010(対象:変形性膝関節症 ADAMTS5阻害アプタマー)

大きなアンメット・メディカル・ニーズを持つ変形性膝関節症を対象とした RBM-010。こちら、2022 年の臨床試験開始を目指す

RBM-010 は、従来、大正製薬との共同研究の下で開発されてきたアプタマーである。2019 年 4 月、リボミックは、大正製薬の協力を適宜受けながら、リボミックが RBM-010 の事業化を進める上で重要なグローバル展開を推進するためのパートナーを選定していくこととし、現在、そのパートナーを選定中であるが、今般 2022 年の臨床試験入りの計画であることを明らかにした。RBM-010 のターゲットとなっている ADAMTS5 (a disintegrin and metalloproteinase with thrombospondin motif 5)は、軟骨の構成成分であるプロテオグリカン分解するアグリカナーゼとして作用し、軟骨成分を破壊する作用がある。マウスの実験では、RBM-010 の投与により、膝軟骨の分解が有意に抑制されることが証明されている。



sGAG: 硫酸化グリコサミノグリカン; 軟骨破壊により産生されるsGAG 産生が抑制される
(出所)リボミック社資料(JP モルガン・ヘルスケア・コンファレンス)

(変形性膝関節症について)

変形性膝関節症は、変形性関節症の中で最も多く、日本において X 線検査では 3000 万人に見られ、そのうち症状がある有症患者数は 1000 万人とも言われている。米国ではその約 3 倍の患者が存在すると推定されている。また、2050 年までに世界中で 1 億3千万人が変形性膝関節症の患者数が予想されている(リボミック)。変形性膝関節症は、膝の関節にある軟骨が徐々に摩耗して下の骨が露出し、骨の棘が発生、あるいは骨が変形する病気である。けがや病気を原因とするもの(二次性)もあるが、直接的な原因は不明の一次性のものがほとんど

である。根治療法はなく、多くは、保存療法（進行防止・症状緩和）で対応されており、一部で、人工関節置換手術のような外科療法、あるいは、培養軟骨移植のような再生医療も行われている。

保存療法の基本は、運動療法であるが、薬物療法として、痛みを緩和する消炎鎮痛剤（NSAIDs）の投与がある。また、軟骨成分であるヒアルロン酸やグルコサミン、コンドロイチンの注射、服用などが存在するが、その効果は限定的と言われている。RBM-010 のように膝軟骨の分解が有意に抑制される薬剤は、大いにアンメット・メディカル・ニーズを満たす可能性があるものと考えられる。一方で、アンメット・メディカル・ニーズが高いからこそ、開発競合も激しい分野と想像される。

新規資金調達必要性と意義

2020 年 1 月 10 日、リボミックは、第三者割当による第 15 回新株予約権の発行による資金調達計画を公表した。TOFU study には 10 億円程度必要であり、他の候補品の開発継続や運転資金、転換社債の未償還残高の繰上償還まで勘案すると、一定の資金調達が必要であった。調達予定額は約 56 億 6 千万円（当初行使価格 479 円の場合）であり、希薄化率は 73.32%となるが、行使期間は向こう 3 年（2023 年 1 月 27 日まで）であり、行使のタイミングや行使される量をリボミックがコントロールできるようにファシリティ契約を結んでいる。下限行使価額は、発行決議日の株価終値の 50%にあたる 240 円と設定され、上限行使価額は設定されていない。また、残存する転換社債 2 億円分は、現在保有する現預金（9 月末 12.8 億円）の一部で繰上償還し、さらなる希薄化を抑止する。なお、残存する第 14 回新株予約権の取扱いについては未定である。

バランスシートの概況

	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年3月	2019年3月	2020年9月
流動資産	443	3,387	3,112	2,433	2,240	2,502	2,369
現預金	330	3,337	1,860	1,783	1,580	1,413	1,288
有価証券			1,199	599	599	999	999
固定資産	49	32	70	62	86	67	61
資産合計	492	3,419	3,183	2,495	2,326	2,569	2,430
流動負債	138	156	144	57	99	86	110
固定負債	0	0	0	0	0	1,000	200
社債	0	0	0	0	0	1,000	200
負債合計	138	156	144	57	99	1,086	310
純資産	353	3,262	3,039	2,438	2,227	1,483	2,120
株主資本	353	3,262	3,039	2,438	2,224	1,481	2,218
新株予約権					2	1	1
< 資金調達 >							
株式発行収入	1	2,879	98	42	534	92	235
(IPO)		(IPO)					
転換社債発行収入						989	
(備考)		2014年9月上場		2017年6月第12、13回新株予約権発行	2018年5月第12回新株予約権行使完了第13回新株予約権消却	2018年6月第14回新株予約権発行第1回転換社債発行	2020年1月転換社債消却予定第15回新株予約権発行

(出所)有価証券報告書等からフェアリサーチ作成

調達された資金は、「選択と集中」に沿って、まずは優先的に①RBM-007 に充当され、その後、②RBM-003、③RBM-010、④新規技術開発費用、⑤運転資金の順に充当される。

RBM-007 のみならず複数の主力開発品が揃うことに寄与する

今回の調達により、リボミックは、RBM-007 の開発について、TOFU Study (wet-AMD の Phase2) 及び ACH 対象の Phase1 も独力で遂行することができるだけでなく、第二の柱となる RBM-003 (心不全対象) と RBM-010 (変形性膝関節症) について、前臨床試験まで遂行できる資金を確保し、さらに新規技術の開発費用や運転資金の一部まで充当することまで企図している。

調達する資金の使途

資金使途	金額(百万円)	支出期間
① RBM-007 wet-AMDおよびACHを対象とした臨床開発費用	1,875	2020年1月 ~ 2023年3月
② RBM-003 心不全を対象とした非臨床試験費用	1,148	2020年1月 ~ 2023年3月
③ RBM-010 変形性膝関節症を対象とした非臨床試験費用	1,138	2020年1月 ~ 2023年3月
④ 新規技術開発費用 (製剤化技術開発・導入他)	1,080	2020年1月 ~ 2023年3月
⑤ 運転資金	418	2020年1月 ~ 2023年3月
合計	5,659	

(出所)適時開示資料からフェアリサーチ作成

調達された資金は、「選択と集中」に沿って、まずは優先的に①RBM-007 に充当され、その後、②RBM-003、③RBM-010、④新規技術開発費用、⑤運転資金の順に充当される計画になっている。

資金調達が成功するにつれ、RBM-007 単発エンジンのみに頼る経営ではなく、RBM-003 という第二のエンジンで双発機へグレードアップされることとなり、さらに、RBM-010 という 3 つ目のエンジンも用意することが出来て、経営の安定化に資するものと考えられる。

RBM-007 の差別化ポイントへの理解進展。 韓国 AJU 薬品への導出に続き、欧米を対象とした大型提携に期待	結論 2020 年 1 月 15 日に行われた JP モルガン・ヘルスケア・カンファレンスでの発表は、RBM-007 中心の内容で、新しい内容はあまりなかったが、「既存薬や競合開発品との差別化ポイント(Dual Mechanism 及び既治療患者対象の開発が理解され、聞き手が強い興味を持って傾聴していたと感じている。」との評価であった。 リボミックは、複数の製薬会社と RBM-007 に関して提携協議を継続中である。既に、韓国 AJU 薬品会社と wet-AMD 対象に韓国・東南アジアと地域を限定した導出契約に関する基本合意に達しており、最大 600 万ドルを獲得できる見込みである。(韓国・東南アジアの市場規模(ピーク時推定 70-80 億円)で最大 600 万ドルの導出契約金をベースに類推すると、日米欧の市場規模(ピーク時推定 4365 億円)で 400 億円台のパイプライン価値は在り得る。)2021 年には TOFU の結果が判明する予定であり、大手製薬会社と欧米を対象とした提携がまとまれば、大型提携になる可能性があるという見方は不変である。
RBM-003 他の開発も揃うことで、一本足経営から脱却	また、2020 年 1 月 10 日、リボミックは、TOFU Study まで独力で遂行し、さらに、その他の有望な候補の開発を推進するため、資金調達計画(第 15 回新株予約権発行)を発表した。調達予定額は約 56 億 6 千万円であり、希薄化率は 73.32%となる。ただし、行使期間は向こう 3 年間であり、リボミックが行使をコントロールできるようファシリティ契約も結んでいる。また、RBM-007 のパイプライン価値(日米欧対象で 425 億円:前回レポート参照)に比べれば、調達予定額は一桁小さい規模である。 今回の資金調達により、RBM-007 単発機の経営から、RBM-003 という第二エンジンを備えた双発機へグレードアップされ、さらには RBM-010 という第三のエンジンも用意することで経営の安定度が向上することに着目したい。

＜備考＞ マザーズ上場会社の売上高に関する上場廃止基準の見直し（2020 年 2 月 1 日）

最近1年間の売上高が1億円未満となった場合であっても、直前事業年度の末日の属する月に係る時価総額が40億円以上である場合には、上場廃止にはならなくなりました。

（参考）

マザーズ及びJASDAQにおける上場廃止基準の見直し

（1）マザーズ上場会社の売上高に関する上場廃止基準の見直し

・最近1年間の売上高が1億円未満となった場合において、「新規上場から10年を経過した場合の市場選択時におけるマザーズへの継続上場に係る要件」に適合しているときには上場を維持するものとします。

※長期間にわたって売上高等の計上が生じない場合であっても、高い成長可能性等を有するときには、上場廃止の対象から除外する趣旨です。

※先行投資型企業も含めた高い成長可能性を有する企業向け市場の上場制度の在り方については、金融審議会「市場構造専門グループ」における議論も踏まえて改めて検討を行います。

具体的には、最近1年間の売上高が1億円未満となった場合であっても、マザーズにおける市場選択の場合に準じ、直前事業年度に係る決算の内容を開示するまでの間に上場会社作成の「高い成長可能性に関する説明書面」及び当該会社以外の者であって、企業価値又は株価の評価に係る専門的知識及び経験を有するものが作成した「高い成長可能性に関する確認書」を提出すれば、上場を維持するものとします（ただし、直前事業年度の末日の属する月に係る時価総額が40億円以上である場合には、それらの書類の提出を省略できるものとします。）。

リボミックに関する過去のレポート

ベーシックレポート「ブロックバスターの可能性に開眼」 2019 年 11 月 26 日発行

フェアリサーチ株式会社

＜連絡先＞

104-0033 中央区新川 1-6-12 AIビル茅場町 511

電話 03-6403-9217

メール info@fair-research-inst.jp

ディスクレーマー

本レポートは、株式会社ティー・アイ・ダヴリュ/株式会社アイフィスジャパン(以下、発行者)が、「ANALYST NET」のブランド名(登録商標)で発行するレポートであり、外部の提携会社及びアナリストを主な執筆者として作成されたものです。

- 「ANALYST NET」のブランド名で発行されるレポートにおいては、対象となる企業について従来とは違ったアプローチによる紹介や解説を目的としております。発行者は原則、レポートに記載された内容に関してレビューならびに承認を行っておりません(しかし、明らかな誤りや適切ではない表現がある場合に限り、執筆者に対して指摘を行っております)。
- 発行者は、本レポートを発行するための企画提案およびインフラストラクチャーの提供に関して対価を直接的または間接的に対象企業より得ている場合があります。
- 執筆者となる外部の提携会社及びアナリストは、本レポートを作成する以外にも対象会社より直接的または間接的に対価を得ている場合があります。また、執筆者となる外部の提携会社及びアナリストは対象会社の有価証券に対して何らかの取引を行っている可能性あるいは将来行う可能性があります。
- 本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、有価証券取引及びその他の取引の勧誘を目的とするものではありません。有価証券およびその他の取引に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任で行ってください。
- 本レポートの作成に当たり、執筆者は対象企業への取材等を通じて情報提供を受けておりますが、当レポートに記載された仮説や見解は当該企業によるものではなく、執筆者による分析・評価によるものです。
- 本レポートは、執筆者が信頼できると判断した情報に基づき記載されたものですが、その正確性、完全性または適時性を保証するものではありません。本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における執筆者の判断であり、予告無しに変更されることがあります。
- 本レポートに記載された情報もしくは分析に、投資家が依拠した結果として被る可能性のある直接的、間接的、付随的もしくは特別な損害に対して、発行者ならびに執筆者が何ら責任を負うものではありません。
- 本レポートの著作権は、原則として発行者に帰属します。本レポートにおいて提供される情報に関して、発行者の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行うことは法律で禁じられております。